

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101389		
法人名	医療法人 鴻志会		
事業所名	グループホームサムデイ		
所在地	徳島市川内町平石若松95		
自己評価作成日	平成24年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、利用者一人ひとりのできることや得意とすることを見出すような場面づくりを行い、規則正しい生活を送ることができるよう支援している。また、利用者が安心して安全、清潔に暮らすことができるよう、衛生管理や身体管理を行い、急な病気にも直ちに対応できる体制を構築している。看護師2名を配置したり、協力医療機関との連携を強化したりして、看取り介護を実践している。環境面では、つねに花を絶やさないように季節の草花を植えたり、押し花をしたりして楽しんでもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯に位置している。交通量の少ない、静かなゆったりとした環境にある。管理者や職員は、理念の“私らしく生き生き”を実現することができるよう支援している。利用者一人ひとりのできることや得意なことを引き出し、表現する場所や機会を設けている。職員は、法人内・外の研修を受講し、資格取得やスキルアップに励んでいる。母体法人の医療機関と連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念の意義をふまえた支援を職員全員と行っています。	地域密着型サービスの意義や目的を踏まえた理念を作成し、事業所に求められる社会的役割の発揮に努めている。管理者と職員は、ミーティング等で理念について話しあい、日ごろのケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	農産市や公園、近いのショッピングモールにおやつを食べに出掛けたり、近所のスーパーで買い物をしたりと地域に関わる機会を増やしています。	利用者は、事業所の周辺を散歩したり、買い物へ出かけたりしているが、地域と双方向的に交流を行うまでには至っていない。	暮らしとは、事業所のなかだけで完結するものではなく、地域との相互関係のもとに成り立っていることから、積極的に地域の行事へ参加したり、地域住民から認知症等に関する様々な相談を受けるための機会を確保したりして、地域活動や住民との関わりをより深められたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議などで勉強会を行い、話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し、意見を出し合っています。また、運営推進会議で出された意見を活かしたケアをしています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の行事予定や介護保険の改正に関する説明、避難訓練の報告等を行い、参加者と話しあっている。外部評価結果についても説明を行っており、出された意見を日ごろの運営面へ反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や包括支援センター担当者へ困った事を相談したり意見を聞いたり出来る関係です。	市担当窓口へ出向いて事業所の現状を報告し、指導や助言を得ている。また、外部評価結果や目標達成計画書の提出時にアドバイスをもらうなどして、積極的に連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会などで理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	利用者の権利擁護や身体拘束について、法人内で勉強会を実施するなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためのカンファレンスや勉強会を行っており、言葉づかいについても十分気をつけるようにカンファレンスで周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で話し合う機会を設けたり、入所時に権利擁護の説明が必要と思われる入居者には個別に説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結時には不安な事や要望について聞くようにしています。契約事項に沿って十分説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを十分図っています。その中から意見や要望をくみ取るようにしています。家族様は面会に来られた時や必要時連絡に意見を聞けるようにコミュニケーションを図っています。	日ごろから、管理者と職員は、利用者や家族と話しあいを重ね、意見や要望の把握に努めている。出された意見や要望は、職員間で検討し、必要に応じて運営者へ報告を行うなどして迅速な対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者とはカンファレンスに参加などして他の職員ともコミュニケーションを図る機会を作っています。それ以外にも日頃からコミュニケーションを図り、意見や助言を聞く機会を設けています。	代表者と職員は、カンファレンス時に事業所の運営について話しあっている。また、朝礼時に、職員間で意見や提案を出しあって、運営面へ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則では育児、介護、疾病などについて規則を設けており、特例的な措置にも対応してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に研修に参加し知識やケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設に勤めている職員と情報交換を含めて親睦会に行ったり、施設見学に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人に希望を聞き、それに従って支援できる方法を考えるようにしています。入居者の生活歴を把握し信頼関係の構築に向け取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に一番困っていることは何かを伺っています。また他の不安な事やご本人のこれまでの生活習慣なども伺い、どのように生活をしていくかの方針を話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活の様子を伺い、事業所でしている事や本人様にできる事を考え実践できるよう支援しています。希望に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の役割分担を支援し、悩みはともに話し合い、様々な出来事についても話し合っています。人生の先輩として教えて頂く事も多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで近況報告や日頃入居者が言っておられる希望を代弁して伝えています。家族からの要望も取り入れ、家族を外出する機会を増やして頂いて、職員と家族が相互に協力し入居者を支えていけるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方の面会が円滑に行えるように支援しています。また、入居者一人ひとりの希望に応じた支援を行っています。	利用者の友人や知人の来訪がある。気兼ねなく楽しんで過ごしてもらおうことができるよう、職員は配慮しつつ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係がうまくいくように調整役となっています。孤立しないように入居者同士が関わり合い、支え合えるような環境や雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は、入居者が入院や転院をされても、お見舞いに行ったり、一人暮らしの家族様には時々、安否確認したりしています。退去後数年経過しておる家族とも交流があり、年賀状のやりとりやサムデイへの来訪などがあります。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の表出が苦手だったりうまくできない方であったりしても職員が積極的にコミュニケーションを図り、意向を把握していくように努めています。	意思の表出が困難な利用者には、日ごろの暮らしのなかで、些細な行動や表情等から思いや意向を把握するよう努めている。また、家族から情報を得るなどして、本人の思いの実現に向けた支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族、面会者から情報収集し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の生活を把握し、能力に応じて役割を担ってもらうなど事業所内での役割分担を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族に希望を伺い、職員と話し合って方法や現状に則した介護計画を作成しています。	3か月ごとに介護計画を見直しているが、本人や家族の要望、体調の変化等に応じて、随時見直している。全職員でモニタリングやカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の記録の確認や日誌に気づきや工夫を記入して職員間で確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の入院などその時々生まれるニーズに対応して柔軟な対応、支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理・美容院に施設に来て頂き髪の毛の整容や歯科受診、野菜販売来訪など心身の状況に合わせて活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら、かかりつけ医や納得された医療機関への受診ができるように支援しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受審を支援している。家族の協力を得たうえで通院を支援しているが、本人や家族の希望によっては職員が代行で支援することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員2名を配置して、健康管理や医師との連携を図り適切な処置が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様に状態の確認をしたり、度々連絡をして頂くようにしています。職員も面会に行くなどし、退院の予定について家族と話し合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階から本人・家族と相談、話し合い、協力医療機関と相談しながら今後の事や看取りについての方針を決めています。	契約時の段階で、終末期の指針を説明している。本人や家族の希望する終末期を迎えることができるよう、医師や職員等の関係者間で連携を図って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方や創傷、急変時の対応についてカンファレンス時に勉強会を行い、手技や方法を身につけるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難場所を近くの建物に協力をお願いしています。	災害に備え物品を備蓄している。しかし、避難訓練を行うまでには至っていない。また、災害時には、近隣のビルへ避難する予定としているが、協議や協力要請は行っていない。	運営推進会議等の機会に、事業所の防災のあり方について協議するなどして、利用者の安全確保に取り組まれない。また、少なくとも年2回は、事業所独自の避難訓練を実施されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に十分配置しています。	利用者の人格を尊重し、プライドを傷つけないような言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で希望の表出や自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて生活して頂くように言葉かけや支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身の回りのケアや季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌の手入れや髭剃りなどの身だしなみやおしゃれなどを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥きや筋取りなどを日常的にしています。食後は食器を洗ったりテーブルを拭いたりと共にしています。	利用者と職員が相談して献立を決め、ともに食材を買い出しに出かけている。利用者一人ひとりの力量に応じて、盛りつけや片づけなどの役割を担ってもらっている。栄養バランスや水分摂取量等について、医師から助言を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量と水分の記入をして一日の摂取量を満たしています。状態に応じてパン食にしたり栄養補助食品を利用するなど一人ひとりに合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて行っている。入れ歯の入居者は洗剤に入れて夜間消毒を行っています。		

自己	外部	項目	一階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの能力に応じて支援している。排泄のサイン見逃さないようにし、下剤を服用している入居者はパターンや時間がかかるので注意して見守りをしてトイレでの排泄を促しています。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を活用し、時間を見はからってトイレへ誘導している。その際、利用者の自尊心に配慮し、さりげない声かけを心がけている。トイレで気持ちよく排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘について理解をしており、下剤の服用やさつまいもや海藻を食べるようにして便秘の予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に応じて時間かけてゆっくりと入浴してもらっています。朝風呂の希望にも応じています。	毎日、入浴することのできる体制を整備している。利用者一人ひとりの気持ちや習慣にそった支援を行っている。利用者の希望により、朝風呂を楽しむ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心掛けています。夜間不眠の入居者にたいしては昼間など状況に合わせて安眠の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の目的や副作用、用途、用量を理解しており、もちろん症状の変化や安定について職員間で話し合っています。投与時の服薬確認も厳重に行い、変更時間違いないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの役割分担ができており、得意分野を活かした支援を行っています。例えば俳句や川柳が得意な方には短冊を作成して書いて頂くなど楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での日光浴や華の水やり、掃除など日常的に外に出られるように支援しています。また、家族との外出や観光バスを利用した遠足など家族や地域の人たちの協力しながら出掛けられる支援を行っています。	利用者は、玄関前で外気浴をしたり、草花の手入れや清掃等で戸外へ出る機会を設けたりしている。また、季節に応じた花見や家族との外食等、利用者の希望に応じて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			一階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお小遣いを預かっています。外出や病院受診などの時に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者もおられますが、家族に連絡をして欲しいなどの申し入れがある場合は電話をしたり、家族と手紙のやりとりなども行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるような空間作りや環境整備を行っています。トイレは、文字を大きくしたり案内を使用するなどの工夫をしています。	玄関は段差がなく、要所に手すりを設置している。壁面には、季節の飾りつけを行っている。利用者にわかりやすいよう、トイレの表示を大きくするなど配慮を行っている。リビングには、利用者の詠んだ短歌や俳句を短冊にして飾っており、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや随時に設置された椅子で自由に休まれたり、仲のよい入居者同士、思い思いに話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味のものであったりしたものを、持って来られたり、電気毛布や扇風機、冷蔵庫なども持って来られたりと本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	利用者は、居室に籐の筆筒や鏡台、家族の写真、思い出の品を持ち込んでいる。整理された居室や手近なところに物品を並べた居室等、利用者一人ひとりにとって居心地よく過ごすことのできる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	目印や風呂とわかるように、のれんをかけたしたりして、一人ひとり出来る事、分かることを活かして、安全かつ自立して生活がおくれるように工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の理念の意義をふまえた支援を職員全員と行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	農産市や公園、近いのショッピングモールにおやつを食べに出掛けたり、近所のスーパーで買い物をしたりと地域に関わる機会を増やしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議などで勉強会を行い、話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話をし、意見を出し合っています。また、運営推進会議で出された意見を活かしたケアをしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や包括支援センター担当者に困った事を相談したり意見を聞いたり出来る関係です。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会などで理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のためのカンファレンスや勉強会を行っており、言葉づかいについても十分気をつけるようにカンファレンスで周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で話し合う機会を設けたり、入所時に権利擁護の説明が必要と思われる入居者には個別に説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の締結時には不安な事や要望について聞くようにしています。契約事項に沿って十分説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを十分図っています。その中から意見や要望をくみ取るようにしています。家族様は面会に来られた時や必要時連絡に意見を聞けるようにコミュニケーションを図っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者とはカンファレンスに参加などして他の職員ともコミュニケーションを図る機会を作っています。それ以外にも日頃からコミュニケーションを図り、意見や助言を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則では育児、介護、疾病などについて規則を設けており、特例的な措置にも対応してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に研修に参加し知識やケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設に勤めている職員と情報交換を含めて親睦会に行ったり、施設見学に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人に希望を聞き、それに従って支援できる方法を考えるようにしています。入居者の生活歴を把握し信頼関係の構築に向け取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に一番困っていることは何かを伺っています。また他の不安な事やご本人の今までの生活習慣なども伺い、どのように生活をしていくかの方針を話させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活の様子を伺い、事業所でしている事や本人様にできる事を考え実践できるよう支援しています。希望に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の役割分担を支援し、悩みはともに話し合い、様々な出来事についても話し合っています。人生の先輩として教えて頂く事も多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで近況報告や日頃入居者が言っておられる希望を代弁して伝えています。家族からの要望も取り入れ、家族を外出する機会を増やして頂いて、職員と家族が相互に協力し入居者を支えていけるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に、面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方の面会が円滑に行えるように支援しています。また、入居者一人ひとりの希望に応じた支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係がうまくいくように調整役となっています。孤立しないように入居者同士が関わり合い、支え合えるような環境や雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員は、入居者が入院や転院をされても、お見舞いに行ったり、一人暮らしの家族様には時々、安否確認したりしています。退去後数年経過してある家族とも交流があり、年賀状のやりとりやサムデイへの来訪などがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の表出が苦手だったりうまくできない方であったりしても職員が積極的にコミュニケーションを図り、意向を把握していくように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族、面会者から情報収集し、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の生活を把握し、能力に応じて役割を担ってもらうなど事業所内での役割分担を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族に希望を伺い、職員と話し合っって方法や現状に則した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の記録の確認や日誌に気付きや工夫を記入して職員間で確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の入院などその時々生まれるニーズに対応して柔軟な対応、支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理・美容院に施設に来て頂き髪の整容や歯科受診、野菜販売来訪など心身の状況に合わせて活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら、かかりつけ医や納得された医療機関への受診ができるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員2名を配置して、健康管理や医師との連携を図り適切な処置が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様に状態の確認をしたり、度々連絡をして頂くようにしています。職員も面会に行くなどし、退院の予定について家族と話し合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階から本人・家族と相談、話し合い、協力医療機関と相談しながら今後の事や看取りについての方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方や創傷、急変時の対応についてカンファレンス時に勉強会を行い、手技や方法を身につけられるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難場所を近くの建物に協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に十分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の会話の中で希望の表出や自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて生活して頂くように言葉かけや支援を行っています。散歩や外食など希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身の回りのケアや季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌の手入れや髭剃りなどの身だしなみやおしゃれなどを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥きや筋取りなどを日常的にしています。食後は食器を洗ったりテーブルを拭いたりと共にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量と水分の記入をして一日の摂取量を満たしています。状態に応じてパン食にしたり栄養補助食品を利用するなど一人ひとりに合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて行っている。入れ歯の入居者は洗浄剤に入れて夜間消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの能力に応じて支援している。排泄のサイン見逃さないようにし、下剤を服用している入居者はパターンや時間がかかるので注意して見守りをしてトイレでの排泄を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘について理解をしており、下剤の服用やさつまいもや海藻を食べるようにして便秘の予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に応じて時間かけてゆっくりと入浴してもらっています。朝風呂の希望にも応じています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心掛けています。夜間不眠の入居者にたいしては昼間など状況に合わせて安眠の支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の目的や副作用、用途、用量を理解しており、もちろん症状の変化や安定について職員間で話し合っています。投与時の服薬確認も厳重に行い、変更時間違いないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの役割分担ができており、得意分野を活かした支援を行っています。例えば俳句や川柳が得意な方には短冊を作成して書いて頂くなど楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での日光浴や華の水やり、掃除など日常的に外に出られるように支援しています。また、家族との外出や観光バスを利用した遠足など家族や地域の人たちの協力しながら出掛けられる支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			二階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお小遣いを預かっています。外出や病院受診などの時に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者もおられますが、家族に連絡をして欲しいなどの申し入れがある場合は電話をしたり、家族と手紙のやりとりなども行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるような空間作りや環境整備を行っています。トイレは、文字を大きくしたり案内を使用するなどの工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや随時に設置された椅子で自由に休まれたり、仲のよい入居者同士、思い思いに話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味のものであったりしたものを持って来られたり、電気毛布や扇風機、冷蔵庫なども持って来られたりと本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や風呂とわかるように、のれんをかけたしたりして、一人ひとり出来る事、分かることを活かして、安全かつ自立して生活がおくれるように工夫しています。		